

AZABU ALPINE CLUB

ALUMNI NEWSLETTER

麻布学園山岳部 OB 会会報第十一号 - 2010 年 6 月 1 日 - 発行者 AAC OB 会理事会

爽やかな新緑がまぶしい季節となりました。現役部員の数も増え、5月の文化祭では実に32年ぶりに、山岳部として展示をしたそうです。では、OB会のニュースをお届けします。

総会開催

5月8日(土)午後、麻布学園 地下食堂で2010年度の総会が21名の会員が参加して開かれました。



冒頭、挨拶に来てくれた現役部員の部長をつとめる渡邊君に、サポート委員会の藤森委員長から、テント1張が貸与されました。武藤会長の司会で議事にはいり、2009年度の活動報告、一般会計報告、山荘会計報告、監査報告が承認されました。新入会員としては、今春卒業したばかりの6名の学生に加えて、永らく顧問をつとめてくださり定年退職された平野博志先生と、遠藤王(つかさ)さんを特別会員に迎えることになりました。

部員数が増えるなか、その活動を支援するOB会のサポート態勢のあり方について熱心な議論が交わされました。会員のみなさまには、年代を問わず、合宿への同行をよろしくお願ひします。

役員人事

また、理事と監査役の任期2年が満了したので、一部が交代しました。今年度からの新しい役員は、以下の通りです。

- ・ **【理事】** 鮫島員允 (S38)、武藤光盛 (S42、理事長)、太田高嗣 (S43)、藤田信一 (S49)、藤森 隆 (S52)、岩城達之助 (S55)、小澤 徹 (S59)
- ・ **【監査役】** 矢部博道 (S44)、森 美文 (S44)

また、各種委員会の委員も一部交代し、今年度は以下の陣容になりました。

- ・ **【山荘委員会】** 鮫島 (委員長)、藤田、高坂元顕 (S56)
- ・ **【ホームページ委員会】** 岩城、鈴木順二 (S46)、斎藤昌毅 (S51)、高野信久 (S52)、高坂、藤森 直 (H21)
- ・ **【サポート委員会】** 藤森 隆 (委員長)、森、鈴木順二、斎藤昌毅、高坂、梅村裕 (H5)、佐藤暁彦 (H16)、高橋智也 (H19)、藤森 俊 (H19)、藤森 直、金丸俊太郎 (H21)、卯尾和音 (H21)、佐藤和秀 (H21)、新井洵太郎 (H22)、荒川頌平 (H22)、前田洋輔 (H22)、丹羽 惇 (H22)、黒川育朗 (H22)、柴山翔二郎 (H22)

部員の声

現役のリーダーである渡邊真之君(高2)から、メッセージが寄せられました。



「現在山岳部員は中学生14名、高校生14名と計28名を数え、また、合宿や普段の山行などでも、ミスなく行動できるようになりました。山岳部の基礎体力が徐々に回復しているのを、日に日に感じております。OB会の皆様には、先日頂きましたテントや文化祭の展示品の貸与など、様々なご支援をさせていただいており、部員一同感謝しております。今後も山岳部の繁栄には、OB会と現役との強い「絆」が重要であると思います。是非とも、ご協力のほどよろしくお願ひします。」

合宿報告はホームページをご覧ください(<http://www.a-a-c.net/>)。間もなく、現役の活動計画・報告などはブログとしてサイトから半独立する予定になっています。

中間忘年会のお知らせ

今年は6月26日(土)～27日(日)にAAC八ヶ岳山荘で開催します。参加ご希望の方は、事務局・藤田信一までご一報ください(連絡先は最後に)。

平成21年度会計報告

■ 一般会計

収入の部		支出の部	
会費	319,000	山荘税金	68,060
総会余剰	5,743	通信連絡費	107,003
利息	63	合宿同行費用	26,910
		サーバ費用	52,959
		雑費	15,685
収入合計	324,804	支出合計	270,617

当期収支 54,189
 前期剰余 470,729
 当期末剰余 524,918

■ 山荘会計

収入の部		支出の部	
山荘使用料		ガス代	32,610
会員大人	81,400	電気代	83,791
会員小人	-	水道代	42,000
非会員大人	327,300	事務消耗品	653
非会員小人	17,500	修繕費	53,550
暖房費	21,000	火災保険	19,250
雑収入	73	蜂取り代	15,000
		材料費	14,728
		通信費	5,940
		過年度通信費	1,780
		過年度修繕費	32,702
収入合計	447,273	支出合計	302,004

当期収支 145,269
 前期剰余 275,883
 前期剰余修正 2,807
 カーペット代積立 △100,000
 当期末剰余 323,959



写真は南アルプス・光岳(撮影:高坂元顕)

AZABU ALPINE CLUB

ALUMNI NEWSLETTER

麻布学園山岳部 OB 会会報第十一号 - 2010年6月1日 - 発行者 AAC OB 会理事会

会員往来

特別会員の福原健司さんが2009年11月に亡くなりました。心よりご冥福をお祈りします。

会員近況

今回は、昭和27年、37年、47年、57年卒業の会員にお願いしたところ、7名の方から近況が寄せられました。

■ 荒木徳也 (S27 卒)

夕暮れの空に浮かび上がっているシルエットの山並みを見ながら、私はいつか麻布学園時代を思い出していた。「いいか、よく聞け。山をなめるんじゃないぞ。山は遊びに行くんじゃないぞ。山に登らしてもらうんだ。山を征服するなんて言う気持ちは、これっぽっちも持たねえことだ。」中村、小倉両先輩の厳しい声が教室に響きわたった。中学生の私達に山への気持ちの大切さを噛んで含めるように教えてくれた。(ピリッとした雰囲気の中に、心の底から楽しさと嬉しさがこみ上げてくる) そんな時代だった。

麻布学園山岳部でのこんな思い出が、いまの腰の痛さや膝の重さ、体に住み続けているガン達とも一緒に生きる元気さを支えてくれる源になっているような気がしている。

■ 大熊義之 (S37 年卒)



皆様には大変ご無沙汰しておりますが、縁あって3年前から(株)岐阜銀行勤務となり、目下岐阜市に在住しております。当地は、山あり川ありの文字通り山紫水明の地、また歴史的には、斉藤道三の孫、龍興を破った織田信長が、当時「井ノ口」と呼ばれたこの地を「岐阜」と改めて居城とするとともに、楽市楽座を開いたという古い街でもあります。

私自身、本格的な山との付き合いから離れて久しくなりますが、当地に来てからは、

土日はトレッキングや街道ウォーキング、そして冬場は日帰りスキーを毎週のように楽しんでおります。ぜひ皆様のご来岐をお待ちしております。

■ 豊川圭一 (S37 年卒)

40年の銀行生活を終え、3年前に学校(新渡戸文化学園)の理事長を引受けて少子化と闘っています。幼稚園から短大までの小さい学園ですが、5,000円札の新渡戸稲造博士を初代校長に迎えた由緒と歴史のある学校です。不徳の限りの半生を送った男が、「武士道」の「仁義礼」を説き「品格」を解説するのを見て、「贖罪の日々」と言った悪友が居ます。当らずとも言えども遠からじであります。高校時代にゴルフで言うイップスと同根の高所恐怖症に突如罹った私が新渡戸稲造と言う高嶺に挑み、何一つ歯の立たぬと悟りました。昨年から蓄えた髭で眼鏡と髭の二つ、新渡戸博士と一緒にものが出来ました。

■ 大室雄一 (S47 卒)

仕事にかまけて同級生ともなかなか会えないなか、「歳の割には、体力はすごくありますよね」などと周囲の人間におだてられ、その気になって「昔、山で鍛えたからなあ」などと、日々帰宅は終電間近の有様。息子たちが小さい頃には、よく奥多摩・秩父などハイキングに連れ出したりしたのだが、この頃はオヤジの相手もしてくれず。この前家の物置を整理していたら、ピッケルとか、わかんとか昔の道具が出てきた。もう使えないなと思いつつも、懐かしかった。この夏は山か・・・

OB会、諸先輩にはたいへんご無沙汰し、申し訳ありません。元気にやっております。

■ 太田弘一 (S47 卒)



今年で56歳になりました。28歳まで毎年山に登っていましたが、人並みにゴルフをやったり、45歳からスキューバダイビングを始めたりと、山からは遠ざかっていました。しかし、昨年のGWに思い出した様に山道具を引っ張り出してきて宝剣岳に登り、登山を再開しました。今年のGWは剣岳を見に立山の別山に登ってきました。昨年映画「点の記」を観て、年齢も顧みず、積雪期の剣岳を生で見たいとの野望を抱き、即実行した次第です。まあ、頂上に立とうなどという無謀な考えを抱かなかっただけかもしれませんが、4月30日から入山しましたが、その日の夜は1mの積雪、翌朝剣岳早月尾根と立山御山谷で雪崩の遭難事故が発生するような状況でした。5月1日以降は天気晴朗なれど3,000m近い稜線では、気温は零下10度、風速15mの厳しい状況でしたが、新雪を被った剣岳、立山連峰、大日岳、後立山の峰々等、360度の大パノラマを堪能してきました。写真の小生の装備(ヤッケ、オーバースボン、手袋、靴、アイゼン、ピッケル)は、19歳の時に使っていたものです。AACのHPを見ると、1973年仙丈岳春合宿にOBとして参加した時の写真と全く同じなので笑ってしまいます。皆さん、大切に手入れをしていれば40年経っても充分使えますよ。いや、ブランクが長かっただけですね。

先日、平野先生の退職祝いにて38年ぶりで山岳部の皆さんに会いました。同期の一人(彼とも数年ぶりです)を除いて誰が誰やら正直わかりません。少し遅れていった私は何人かの方々が手招きをしてくれるものの、さて、招くその人の表情も疑心暗鬼。ああ・・・なんか場違いなところに来ちゃったな。(実は同期の会と勘違いしてました)私も50を過ぎたいい大人にはなっていますので、それとなく周りの人々と話を合わせ探ります。さて30分もしないうち徐々にお互いの性格が滲み出てきました。特に途中から遅れてきたT君の「おう!!」というタメ口を聞くに及んで、一気に時は飛びました。久しく久しくこのような場に参加しないと、ますます来づらくなりますが・・・まあ、間違ってきてしまっても大丈夫のようです。けっこう自分も元気で若いなと思えた夜でした。

■ 小野恒夫 (S47 卒)

先日、平野先生の退職祝いにて38年ぶりで山岳部の皆さんに会いました。同期の一人(彼とも数年ぶりです)を除いて誰が誰やら正直わかりません。少し遅れていった私は何人かの方々が手招きをしてくれるものの、さて、招くその人の表情も疑心暗鬼。ああ・・・なんか場違いなところに来ちゃったな。(実は同期の会と勘違いしてました)私も50を過ぎたいい大人にはなっていますので、それとなく周りの人々と話を合わせ探ります。さて30分もしないうち徐々にお互いの性格が滲み出てきました。特に途中から遅れてきたT君の「おう!!」というタメ口を聞くに及んで、一気に時は飛びました。久しく久しくこのような場に参加しないと、ますます来づらくなりますが・・・まあ、間違ってきてしまっても大丈夫のようです。けっこう自分も元気で若いなと思えた夜でした。



■ 山内健司 (S57 卒)

ご無沙汰しております。大学卒業以来、ずっと俳優をやっております。目黒の、こまばアゴラ劇場というところをホームに、公演や滞在制作で、旅から旅の日々です。ここ数年はフランスの演劇人との共同制作が増えておりまして、『別れの唄』という作品では、2007年から2009年にかけて、約30のフランスの地方都市をまわってまいりました。ツアーの空き時間をつかって、子ども向けの全編仏語一人芝居『舌切り雀』という作品を、各地の小学校、病院、図書館など40カ所ほどで上演したりもしておりました。「旅ジョグ」と称し、国内外の公園や森や水辺を走り回るのが相変わらず一番大切な時間です。



麻布学園山岳部 OB 会事務局・藤田信一